

伊勢湾及び相模湾浅海で採集されたトウガタガイ科貝類 —ヨコヤマウネイトカケギリ (新称), ラッパイトカケギリ およびウネイトカケギリ—

三浦知之

〒 880-0035 宮崎市下北方町平田

Abstract

Three species of pyramidellid mollusks were collected from Ise Bay and Sagami Bay, Japan: *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922, *T. hadakazimana* Nomura, 1938 and *T. crassa* Nomura, 1936. *Turbonilla scrobiculata* and *T. hadakazimana* were recorded in shallow waters of Ise Bay at depths of 14 and 32 m, respectively. They differ from each other by the height ratio to breadth of wholes; about 50% in the former and 45–47% in the latter. *Turbonilla scrobiculata* collected from Sagami Bay at a depth of 15 m has narrower axial ribs and internal spaces than the two others.

はじめに

これまで主に宮崎県と鹿児島県の海岸生物を調査し、出現した貝類などを報告してきた (三浦ほか, 2012; 三浦, 2020, 2021). 得られた標本は宮崎県総合博物館に登録するため、現在再検討を行っており、順次報告する。本報では、南九州以外の浅海域で採集されたトウガタガイ科巻き貝3種を報告する。

材料と方法

材料は1984年8月神奈川県相模湾水深15 m, 1985年4月伊勢湾水深14–32 mで採集した。得られた標本は船上もしくは研究室で10%海水—フォルマリンで固定し、解剖顕微鏡下で観察した。必要に応じて超音波洗浄機を用いて付着物を除いて70% Alcoholに保存して、殻の形態を観察した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

ヨコヤマウネイトカケギリ (新称)

Turbonilla scrobiculata Yokoyama, 1922

(Fig. 1A–C)

Turbonilla (*Mormula*?) *scrobiculata* Yokoyama, 1922, p. 102, pl. 4, fig. 38.

Turbonilla (*Pramormula*) *scrobiculata* Taki & Oyama, 1954, p. 16, pl. 24, fig. 38.

Turbonilla (*Pramormula*) *scrobiculata* Oyama, 1973, p. 66, pl. 18, fig. 33.

near *Turbonilla* (*Turbonilla*) *crassa* Nomura, 1936, pp. 63–64, pl. 9, fig. 71a, b.

near アバライトカケギリ 堀, 2000, p. 711, pl. 354, fig. 51; 堀, 2017, p. 1111, pl. 413, fig. 6, as *Turbonilla crassa* Nomura, 1936.

not ウネイトカケギリ 堀, 2000, p. 715, pl. 356, fig. 78; 堀, 2017, p. 1113, pl. 414, fig. 16, as *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922.

採集記録 1985年4月15日伊勢市沖水深14.2 m, Seisui85-R01 Station 30-B, 34°35.81'N 136°44.43'E, mud & gravels, WT 13.5°C, Bottom T. 11.6°C (1死殻)。

形態・分布・生態 伊勢湾内の水深14.2 mから死殻が得られ、殻高9.1 mm, 殻幅2.4 mmであった (Fig. 1A)。胎殻は、2階以上で (Fig. 1B; 欠損があり、正確には確認できなかった)、殻軸に

Miura, T. 2021. Records on pyramidellid mollusks collected from shallow bottoms of Ise Bay and Sagami Bay, Japan – *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922, *T. hadakazimana* Nomura, 1938 and *T. crassa* Nomura, 1936 –. *Nature of Kagoshima* 48: 41–44.

☑ TM: Hirata, Kitakata-machi, Miyazaki 889–2192, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 28 June 2021; published online: 29 June 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-008.pdf

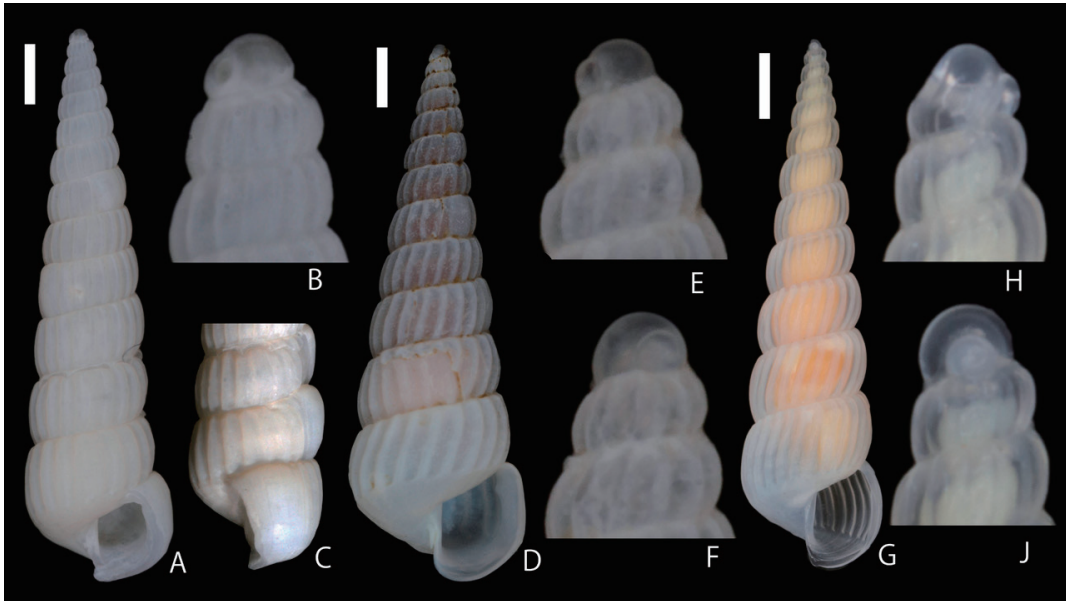


Fig. 1. A. *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922 collected from Ise Bay, ventral view; B. The protoconch of the same, ventral view; C. The body whorl and penultimate of the same showing its varices, side view; D. *Turbonilla hadakazimana* Nomura, 1938 collected from Ise Bay, ventral view; E. The protoconch of the same, side view; F. The same, another side view; G. *Turbonilla* sp. collected from Sagami Bay, ventral view; H. The protoconch of the same, side view; J. The same, side view at the right angle to H. Scale for A, D & F = 1mm.

対して 90° 異旋する (Fig. 1B). 後生殻は螺層 12 階で、殻は白く、厚い (Fig. 1A). 螺層は幅に対して高さが約 50% で、トウガタガイ科ではやや低い。螺層には色帯等がなく、単純な尖塔形の貝である。ほぼ体軸に対して平行なやや太く明瞭な縦肋があり、体層では 20 本程度である。縦肋は螺層周縁で消失するため、殻底は平滑である (Fig. 1A). また、体層の螺層周縁には螺条の窪みがある (Fig. 1C). 縦肋は時に数本が融合し、縦張肋を形成する (Fig. 1C). 初生の数螺層を除くと、肋間は縦肋より明らかに狭いか、ほぼ同じ幅で、螺条が見られず、平滑である。殻口は扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状である。軸壁は確認できない。

本種は原記載 (Yokoyama, 1922) 以後、Taki and Oyama (1954) および Oyama (1973) によって、タイプ標本が再検討されており、それを受けて、タイプ標本を保管する東京大学のサイトにも図と写真が公開されている (東京大学区総合研究博物館, 2021). いずれの図においても、縦張肋が見られること、体層の縦肋の周縁部には螺状の窪み pit と思われる構造があることから、これらの特

徴がない堀 (2000, 2017) のウネイトカケギリは、別種と思われる。むしろ、小型の個体ではあるが、*Turbonilla (Turbonilla) crassa* Nomura, 1936 の記載や堀 (2000, 2017) によるアバライトカケギリの記述は、本種に類似するが、肋間が縦肋の 2 倍以上で、区別される。

伊勢湾の標本は殻口が欠けた不完全な標本であるが、原記載の形態とよく一致する。本種のタイプを再検討した研究では和名が与えられていないので、新称を付した。ここではウネイトカケギリ (堀, 2000, 2017) は別種に対して付された和名と解釈する (後述)。

ラッパイトカケギリ

Turbonilla hadakazimana Nomura, 1938

(Fig. 1D–F)

Turbonilla hadakazimana Nomura, 1938, p. 26, pl. 1, fig. 3a, b.

ラッパイトカケギリ 堀, 2000, p. 1111, pl. 413, fig. 9, as *Turbonilla hadakazimana* Nomura, 1938.

採集記録 1985年4月16日愛知県伊勢湾伊良子水道水深22.0 m, 34°34.32'N 136°51.92'E, Seisui85-R01 Station 32-B, fine sand & mud, WT 13.7°C, Bottom T. 11.9°C (1死殻); 1985年4月16日同所水深32.3 m, 34°36.10'N 136°51.12'E, Seisui85-R01 Station 33-A (2); 1985年4月16日同所水深32.3 m, 34°36.10'N 136°51.12'E, Seisui85-R01 Station 33-B (1).

形態・分布・生態 伊勢湾内の水深22–32 mから生貝と死殻が得られ、最大の標本で殻高9.0 mm, 殻幅3.0 mmであった (Fig. 1D) 胎殻が、2階で、殻軸に対して90°異旋する (Fig. 1E, F). 後生殻は螺層11階で、殻は白く、厚いが、軟体部の存在が確認できる程度に半透明である (Fig. 1D). 螺層は幅に対して高さが約45–47%であり、極めて低い (Fig. 1D). 螺層には色帯等がなく、長く整った円錐形の貝である。体軸に対して0°から約10°傾く、縦肋があり、体層では20本程度である。縦肋は螺層周縁で消失するため、殻底は平滑である (Fig. 1D). 肋間は縦肋と同程度あるいはやや幅広く、螺条が見られず、平滑である。縦張肋は見られない。殻口は扇型で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状である。軸壁は確認できない。内唇から下唇は外側に薄く広がる傾向がある。

伊勢湾から採集された個体は最小でも螺層9階、殻高5.9 mm, 殻幅1.9 mmであったため、原記載の螺層8階、殻高4.0 mm, 殻幅1.2 mmに比べて大型である。しかし、殻幅/殻高の比率はタイプ標本では0.3であり、伊勢湾標本の0.30–0.33とほぼ同じで、相似形といってよいため、本種と同定した

ウネイトカケギリ

Turbonilla sp.

(Fig. 1G–J)

ウネイトカケギリ 堀, 2000, p. 715, pl. 356, fig. 78; 堀, 2017, p. 1113, pl. 414, fig. 16, as *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922.

not *Turbonilla* (*Mormula*?) *scrobiculata* Yokoyama, 1922, p. 102, pl. 4, fig. 38.

採集記録 1984年8月9日神奈川県三浦市油壺マリンパーク沖水深15 m (2).

形態・分布・生態 神奈川県三浦市沖から得られた標本は、殻高8.0 mm, 殻幅2.2 mmであった (Fig. 1G). 胎殻は3階で、殻軸に対してほぼ90°異旋する (Fig. 1H, J). 後生殻の螺層は11階で、殻はやや薄く、透明感があり、軟体部が透ける (Fig. 1G). 各螺層には体軸から約12°傾いたやや細い縦肋があり、体層では25本程度である。縦肋は螺層周縁で消失し、殻底には達しない。このため、殻口の内側から縦肋の先端が明瞭に確認できる (Fig. 1G). 縦肋と肋間はほぼ同じ幅である (Fig. 1G). 縦張肋は見られない。肋間には明瞭な螺条は見られない。殻口は扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状。軸壁は確認できない。

神奈川県で得られた標本は、堀 (2000, 2017) のウネイトカケギリによく一致している。ただし、ヨコヤマウネイトカケギリに関連して記述したように、本種は *Turbonilla scrobiculata* Yokoyama, 1922 と同定することはできない。本種では縦張肋を形成せず、非常に均一で整った殻表の構造が特徴であり、既知種ではない可能性が高い。

本報告では螺層が縦に低い点でよく似た3種のイトカケギリ属を紹介した。紛らわしいが、縦張肋の形成、肋間の広さ、縦肋の太さや傾きおよび螺層の高さに違いがある。和名や学名の対応などに考察を加えたが、今後も検討が必要である。

引用文献

- 堀 成夫, 2000. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会, 平塚, pp. 702–729, pls. 350–363.
- 堀 成夫, 2017. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会, 平塚, pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- 三浦知之, 2020. ‘生きている化石’ガクバンゴウナ科貝類の南九州での記録. *Nature of Kagoshima*, 47: 143–145.

- 三浦知之, 2021. 南九州で記録されたトウガタガイ科貝類—ホソイトカケギリ, クラエノハマイトカケギリおよびチャイロイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 33–36.
- 三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, 58: 51–68.
- Nomura, S., 1936. Pyramidellidae from Siogama Bay, northeast Honsyu, Japan. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins*, (10): 1–108, pls. 1–12.
- Nomura, S., 1938. The third report on Pyramidellidae based upon the specimens preserved in the collection of the Saito Ho-on Kai Museum. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins*, (16): 1–88, pls. 1–15.
- Oyama, K., 1973. Revision of Matajiro Yokoyama's type Mollusca from the Tertiary and Quaternary of the Kanto area. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers*, (17): 1–148, pls. 1–57.
- Taki, I. and Oyama, K., 1954. Matajiro Yokoyama's the Pliocene and later faunas from Kanto region in Japan. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers*, (2): 1–68, pls. 1–49.
- 東京大学区総合研究博物館, 2021. 標本データベース UMUT CM21080, *Turbonilla (Paramormula) scrobiculata* Yokoyama, 1922 <http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DKoseibu/specimens/jp/21080_.html> (2021.06.18)
- WoRMS, 2021. <<http://www.marinespecies.org>> (2021.5.17)
- Yokoyama, M., 1922. Mollusca from the Upper Musashino of Kazusa and Shimosa. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, 44: 1–200 + viii, pls. 1–17.